

平成 23 年度 上野輪王寺宮墓地出土遺物

小俣 悟

はじめに 平成 23 年度に実施した上野輪王寺宮墓地雨水排水整備その他工事に伴う立会調査時の出土品について報告する⁽¹⁾。多数の遺物が出土しているが、特に進入路造成箇所周辺、E 地点 (No.8 マンホール設置箇所周辺) に多く、次いで A 地点 (No.1 浸透枡設置箇所周辺) にまとまっている。よって出土地点ごとに紹介する。なお遺物の大半は陶磁器・土器・瓦等であり、更に金属製品 (鉄・銅製品) も多く、他に石製品等も見られる。石製品は小片であるが、石塔あるいは石柵等の破片と思われる。また漆喰材による製品状の物も見られる。他に動物骨が出土しているが、大腿部当たりで両端を切断されている。なお E 地点では土師質土器 (カワラケ) 及び金属製品が集中している。また排土等では瓦が多量出土している。以下主な遺物を紹介するが、陶磁器類は主に観察表にて説明する。

遺物説明 (第 93 図～第 95 図、第 3 表、図版 48) 1～4 は A 地点及び周辺から出土した瓦である。1 は軒平瓦で、軒部は左端部を欠損。軒部高さ 3.6 cm。顎貼り付けで均整唐草文。2 は軒平 (棧) 瓦で、軒部小片。顎貼り付けで中心子房の均整唐草文。3 は軒丸瓦で、軒部下半を欠損。軒部推定径約 15 cm。家紋文で「丸に二引き文」。4 は軒丸瓦で、軒部のみ。軒部径 11.5 cm。過半を欠損。軒部推定径約 15 cm。「丸に二引き文」。

5～14 は E 地点から出土した土師質土器・瓦・金属製品である。8 は軒丸瓦で、軒部上半のみ。連珠に三つ巴文。9 は鉄製角釘で、完存であるが途中で曲がる。錆が顕著。頭部は折り返し作り。長さ約 11.5 cm。10 は鉄製角釘で、完存であるが途中で少し曲がる。錆は少ない。頭部は折り返し作り。長さ約 3.5 cm。11 は鉄製鏝で、片側片のみ。錆が顕著。12 は銅製板状製品で、端部片。折れ曲がり、錆びている。残存部右下に径約 1 mm の穿孔がある。13 は銅製板状製品で、端部片。錆びている。端部及び反対側を折り曲げている。14 は銅製品で装飾具とも思われ、ほぼ完存である。錆が顕著。上下二層になり長い方の一端部が内側に曲がり、両側に開く。重量があり、長軸 11 cm、最大幅 3.8 cm、最大厚さ 4.9 cm。

15～23 は進入路造成箇所周辺出土の陶磁器・瓦類である。26 は排土等出土の瓦である。25 は軒平瓦で、軒部右端部のみ。右端上半を隅切りにする。軒部高さ 3.5 cm。顎貼り付けで中心三つ葉の均整唐草文。26 は軒丸瓦で、軒部完存。軒部径 11.5 cm。連珠に三つ巴文。

遺物の検討 E 地点出土の土師質土器は大きさで主に 2 種類あり、また厚さでも 2 種類見られる。大半は中型 (5) で、少量小型 (6) である。また厚めでは 1 点 (7) のみである。ロクロ回転は左であり、体部形態等から 18 世紀前半頃と推定される。瓦は、主に「江戸式」であり、家紋瓦も在地産と想定される。遺物 1・2、26 等は 17 世紀後半頃、遺物 3・4 の家紋瓦も 17 世紀後半頃と推測される。26 は胎土に白色粒子が目立ち、文様からも非在地系であり、「大坂式」とも推定され、18 世紀ころとも推測される。金属製品は、鉄製は釘及び鏝であり、釘は大・小あり主に大である。銅製は主に板状であるが、遺物 14 のような塊状のものも見られる。ほぼすべて錆びており、付着物もあり、被熱しているようである。おそらく墓関係の道具 (鉄製品) や装飾類 (銅製品) と思われる。

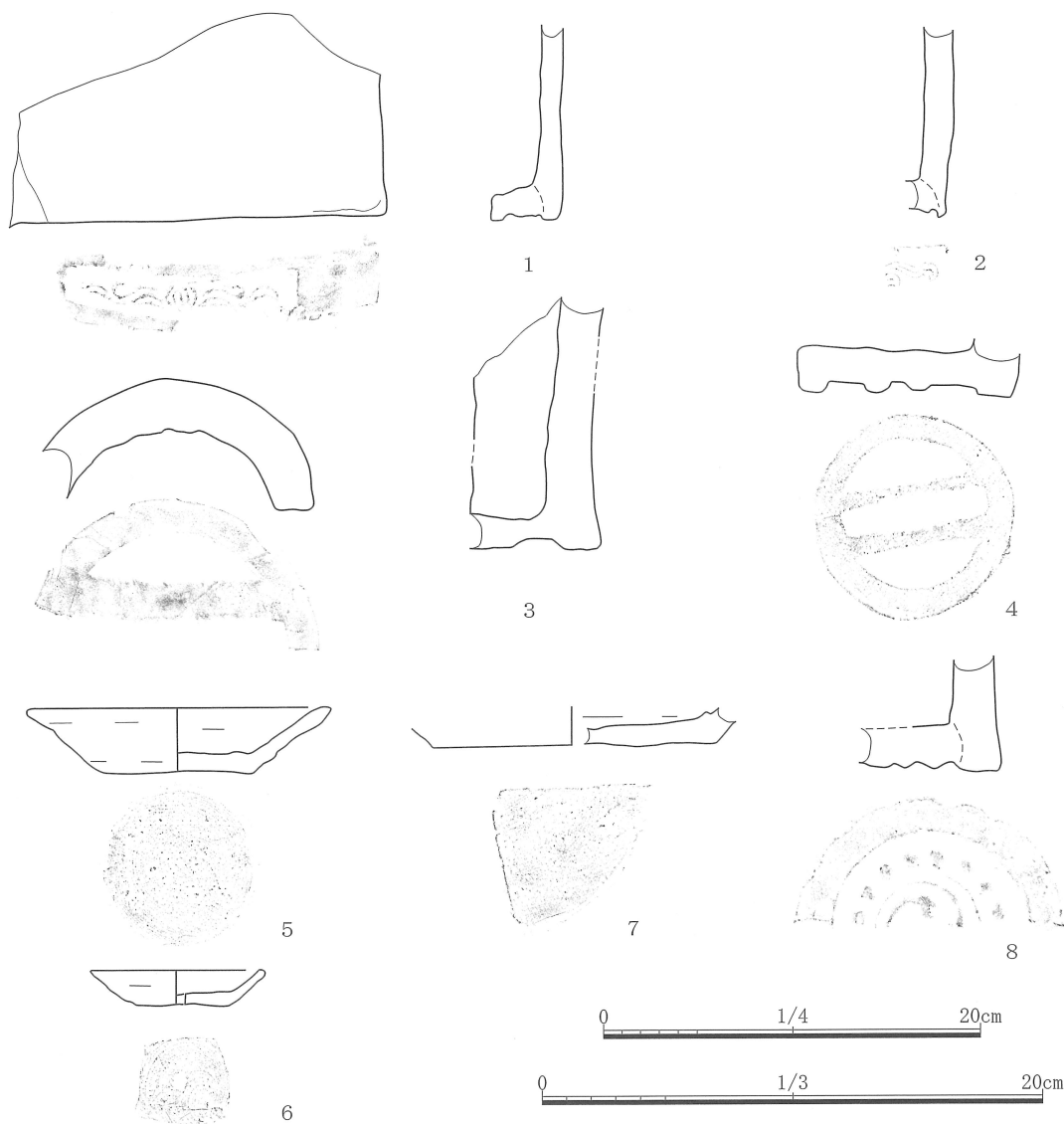
前回の調査⁽²⁾では少量ながら、やはり主に江戸式瓦が出土しているが、家紋瓦及び「東海式」以外の非在地系は初めてである。「丸に二引き文」は、主に足利一族の家紋であり、周辺にても未確認であり関連性が興味深い。また非在地系では「東海式」が多く、「大坂式」は少ない。

近世以前の遺物は土師器小片 1 点のみであり、前回も縄文土器 1 点であるから、本地点では近世以前の遺構等が顕著でない地域とも思われるが、近隣では国立科学博物館地点等にて縄文・古代の住居跡等検出されており、本地域にても想定はされるが、今後の機会に期待したい。

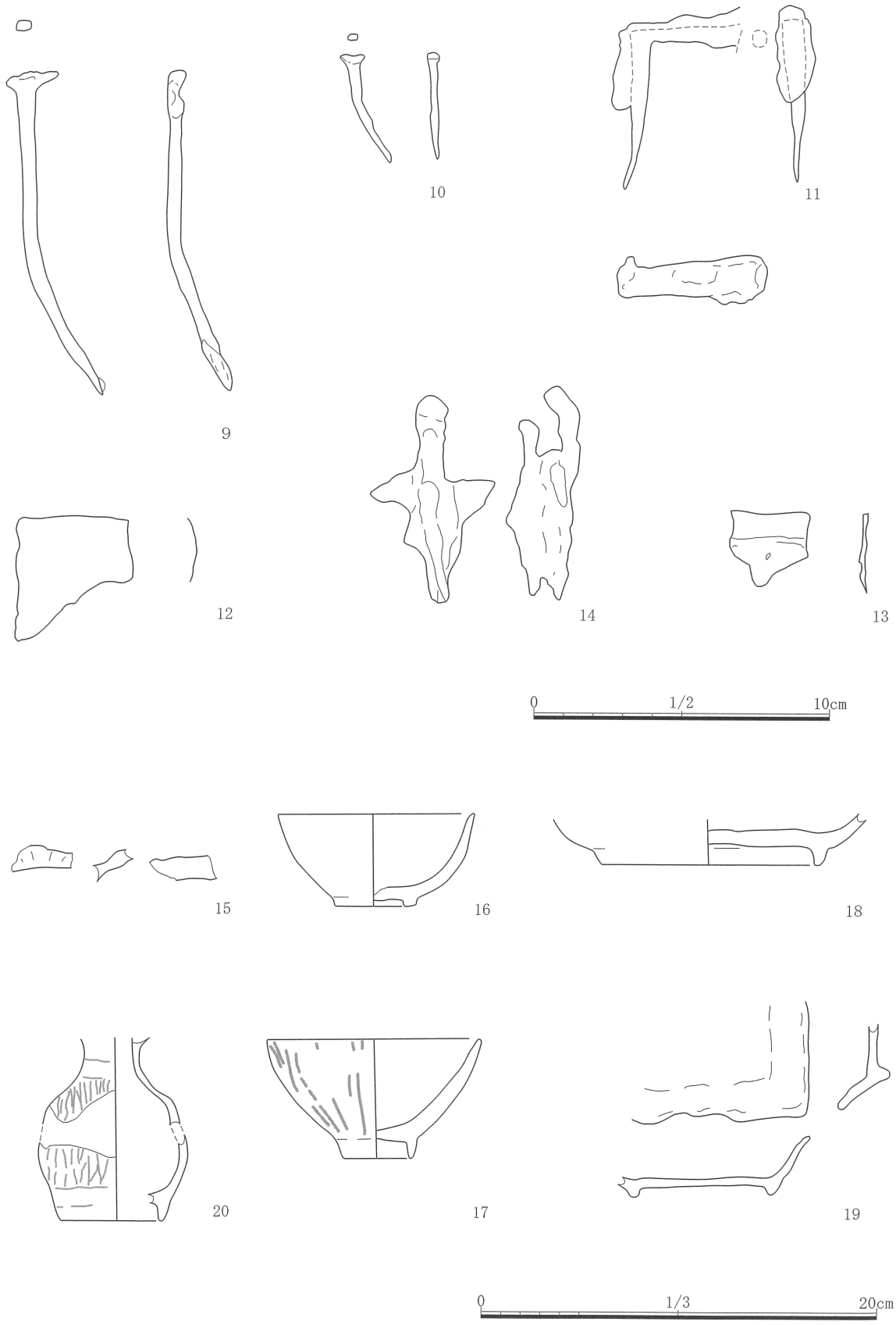
瓦については金子智氏にご教示いただいた。また、本稿作成に当たっては宮内庁書陵部陵墓課陵墓調査室横田真吾氏から多大な援助をいただいた。最後になりましたが、お礼申し上げます。

第3表 上野輪王寺宮墓地 陶磁器類観察表

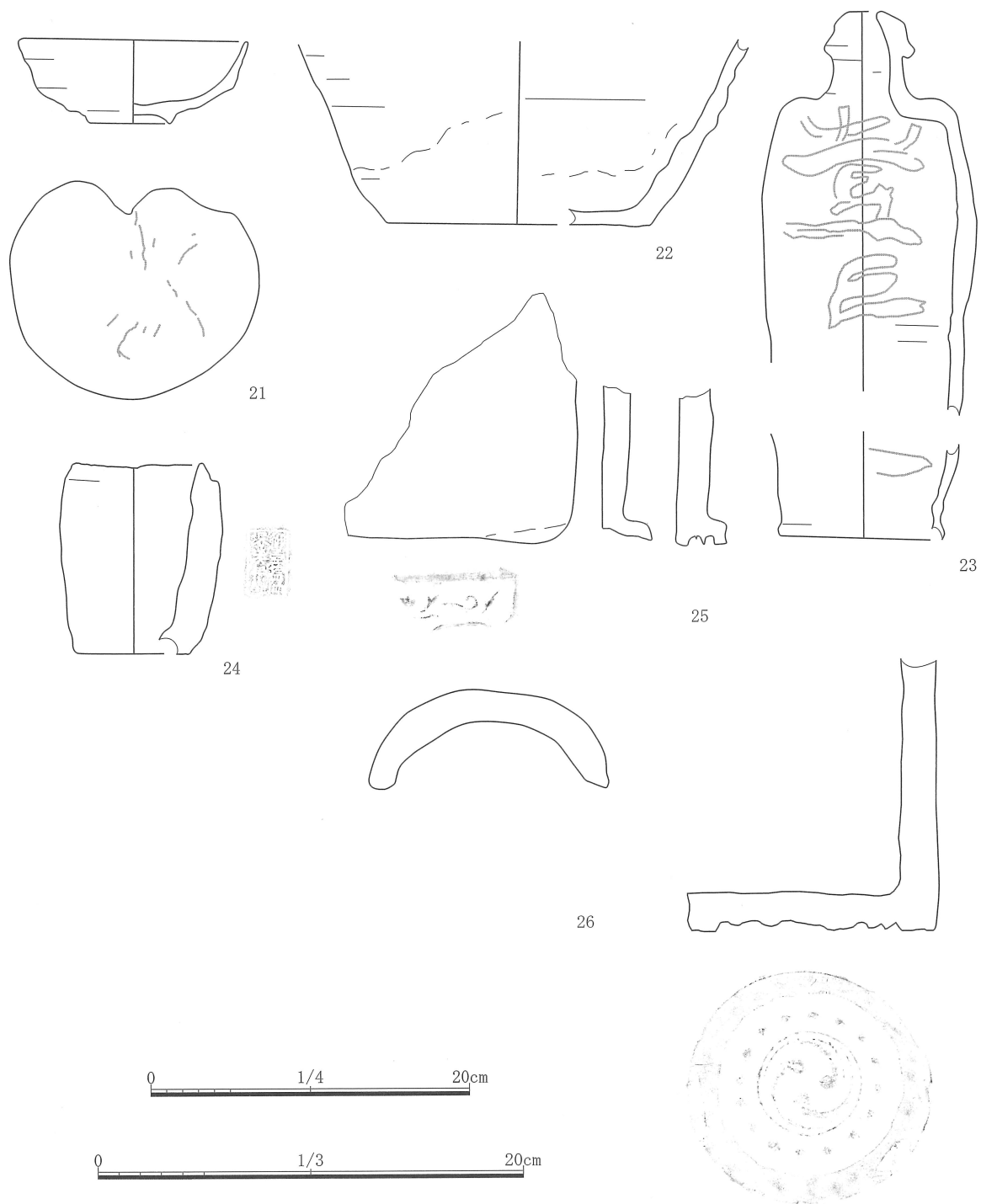
No	胎質	器種	法量 (cm)			遺存部位	調整など	文様など	胎土	焼成	色調	推定産地年代等	出土・備考
			口径	器高	底径								
5	土器	皿	12.2	6.0	2.6	底部完形	ロクロ成形、底部回転糸切離し		輝石等やや密	堅緻	内外面淡褐色	在地系 江戸前期	E地点 口唇にすず痕
6	土器	皿	7.0	3.6	1.3	底部完形	ロクロ成形、底部回転糸切離し	底面に穿孔	輝石等やや密	堅緻	内外面赤褐色	在地系 江戸前期	E地点
7	土器	皿	(11.0)	—	—	底部1/3	ロクロ成形、底部回転糸切離し		輝石等やや密	堅緻	内外面赤褐色	在地系 江戸前期	E地点
15	土師器	坏	—	—	—	体部片	ロクロ整形	内面放射状暗文	砂粒やや密	堅緻	赤褐色	(奈良)	進入路
16	磁器	碗	10.0	4.0	4.7	底部1/3	ロクロ成形		緻密	堅緻	透明釉	肥前系	進入路
17	磁器	碗	11.0	3.6	6.0	底部完形 口縁部1/3	ロクロ成形	体部に雨?文	緻密	堅緻	透明釉	肥前系	進入路
18	磁器	皿	—	11.2	—	脚部1/3	ロクロ成形、底部凹型		緻密	堅緻	瑠璃釉	肥前系	進入路
19	磁器	角皿	—	6.8×	1.8	1/3	形打ち成形、波状口縁	底面に鳥?文	緻密	堅緻	透明釉	肥前系	進入路 目痕あり
20	磁器	瓶	—	5.2	—	底部1/6	ロクロ成形	頸部・体部に網目文	緻密	堅緻	透明釉	肥前系 江戸前期	進入路
21	陶器	碗	11.0	3.8	4.9	底部完形	ロクロ成形	底面に線画き文	密	堅緻	灰釉	瀬戸美濃系 江戸中期	進入路 目痕あり
22	陶器	壺	—	12.6	—	底部 (1/4)	ロクロ成形		長石やや密	堅緻	体部鉄釉	信濃系 (江戸前期)	進入路
23	陶器	徳利	1.2	7.0	(25.5)	口縁部片	ロクロ成形	体部に鉄文字	密	堅緻	灰白釉	瀬戸美濃系 明治	進入路
24	土器	塩壺	(6.6)	5.4	9.1	(1/6)	板作り成形	刻印「御壺塩師/泉湊伊織」	黒色粒子等やや密	堅緻	赤褐色	関西系 江戸中期	進入路 底部中央欠損



第93図 上野輪王寺宮墓地 出土品実測図 (1) 土器 (1/3)、瓦 (1/4)



第94図 上野輪王寺宮墓地 出土品実測図(2) 金属器(1/2)、土師器・磁器(1/3)



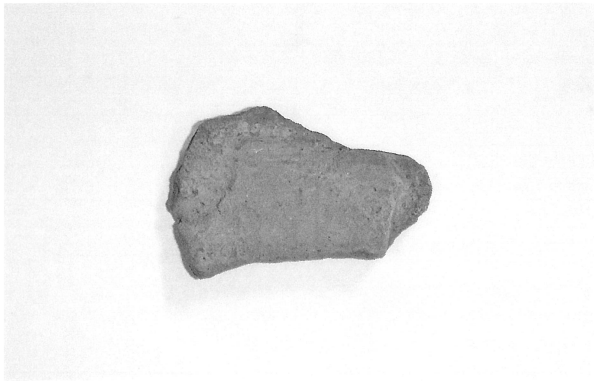
第95図 上野輪王寺宮墓地 出土品実測図 (3) 陶器・土器 (1/3)、瓦 (1/4)

註

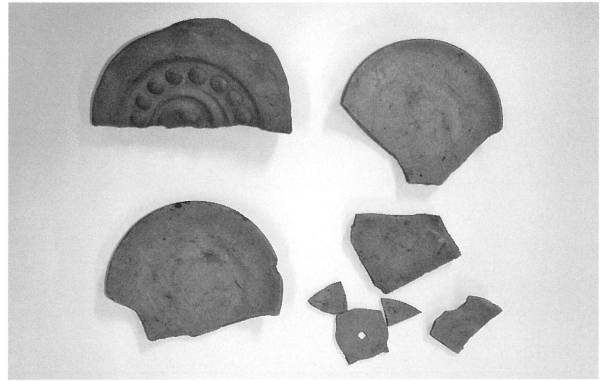
(1) 有馬 伸「上野輪王寺宮墓地雨水排水整備ほか工事に伴う立会調査」、『書陵部紀要』第64号〔陵墓篇〕、宮内庁書陵部、2013年。

以下、出土地点名は上記報告による。

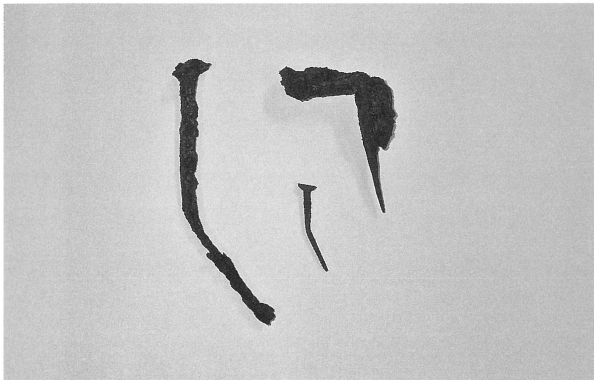
(2) 小俣 悟「上野輪王寺宮墓地出土の遺物」、『書陵部紀要』第60号、宮内庁書陵部、2009年。



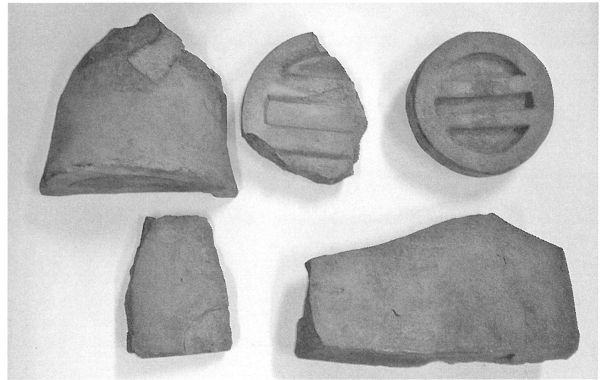
1 土師器坏



2 E地点遺物（土器・瓦）



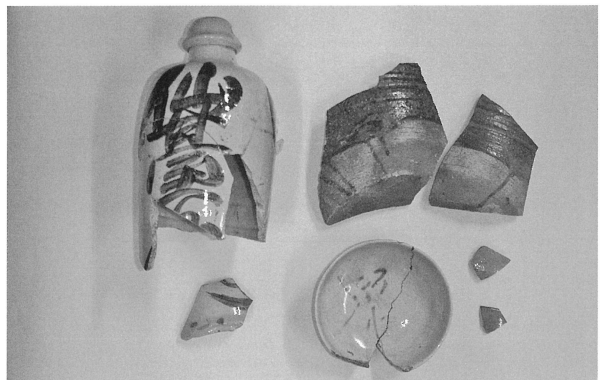
3 E地点遺物（金属製品）



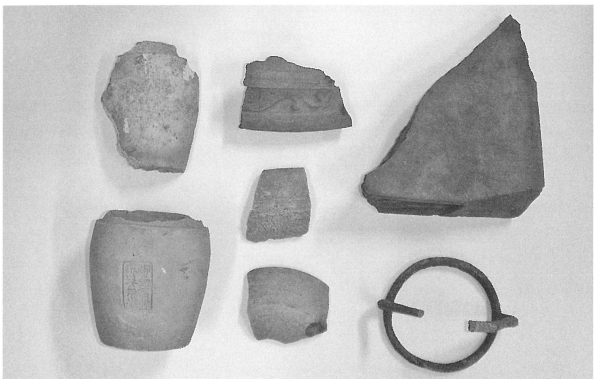
4 A地点遺物（瓦）



5 進入路造成箇所遺物（磁器）



6 進入路造成箇所遺物（陶器）



7 進入路造成箇所遺物（土器等）



8 表土等遺物（瓦）